

| プロジェクト名                   | 経過期間                      | 意義・目的   | センター構想の位置づけ  | H20年度のねらい・目標   | 成果   | 課題  | 今後の展望   |
|---------------------------|---------------------------|---|--|--|--|---|---|
| <b>&lt; 広報・情報提供 &gt;</b>  |                           |   |  |  |  |   |   |
| まちづくり情報誌「こもれび」            | 3年目<br>センター発足前から公社事業として実施 | ・区民が練馬の魅力やまちづくりに関心を持つきっかけの提供  | まちづくりに関する情報提供と学習機会の提供                              | ・編集意図を明確にした紙面づくり<br>・「区民の顔」を生かす紙面づくり   | ・各種情報発信の中での「こもれび」の位置づけを確認<br>・センターやまちづくり条例の仕組みの普及啓発<br>・制作省力化の工夫の導入                                  | ・ターゲット(想定する読者像)を意識した紙面づくりと配布の工夫<br>・「区民の顔」を生かした紙面づくりと作業量の調整 | 特集内容の選定方法の検討<br>・区民の視点で地域を見る中で、ローカルな素材・資源から特集テーマに繋げる配布場所の検討<br>「こもれび」を通じた人的ネットワークづくり  |
| HPほか情報提供、サポーターネット運営       | 3年目                       | ・センターの成り立ちと事業の紹介<br>・センターや活動団体等のイベント情報等の提供・収集<br>・センターと活動団体等のコミュニケーションツールとしての活用           | まちづくりに関する情報提供と学習機会の提供<br>まちづくりに関する情報や活動のプラットフォーム事業 | ・サポーターネットの運用開始と、HPと連動した情報提供  | ・サポーターネットの運用の開始<br>・HPの更新頻度の向上   | ・サポーターの意向把握<br>・サポーター間のネットワーク化<br>・新たな活動団体等の開拓              | サポーターネット<br>・本来の双方向型コミュニケーションの実現に向けた検討<br>HP<br>・センター事業の経過の整理と更新  |
| <b>&lt; 普及啓発(講座) &gt;</b> |                           |   |  |  |  |   |   |
| まちづくり講座(4団体)              | 3年目<br>センター発足前から区事業として実施  | ・区民がまちづくりを行う上で役立つテーマを学び、自主的な活動を始めるきっかけとする。  | まちづくりに関する情報提供と学習機会の提供                              | ・4団体の共催企画で講座を実施する<br>・新たな参加者層を発掘し、まちづくりに関わる人材を育てる  | ・共催団体との連携により幅広いテーマを扱い、まちづくりに関わりが少なかった区民との接点を持てた  | ・講座に参加した区民がまちづくり活動に取り組むに至るまでのフォローアップが十分できていない。              | ・参加者が活動の実践に踏み出そうと思ってもらえるような講座にする  |
| まちづくり講座(区民企画)             | 3年目                       | ・区民がまちに関心を持つきっかけを提供し、新たな人材を発掘する<br>・今までにない新たな視点の活動を生み出す<br>・新たに生まれた活動がまちの空間などを良くすることにつながる | まちづくりに関する情報提供と学習機会の提供                              | ・高校生にまちと関わる面白さを感じてもらい、将来まちに関わる新たな人材を発掘する<br>・商店街に高校生が関わることで、地元のネットワークがさらにつながり、広がる                            | ・高校生にまちと関わる楽しさを感じてもらえた<br>・高校生らの活動(演劇等)を通じて、商店街関係者等がまちの魅力を確認する機会となった<br>・地元の障害者施設と商店街の間に新たなつながりが生まれた | ・高校生らに企画の趣旨、楽しさを十分伝えられず、参加者の減少を招いた。                         | ・参加した高校生らは今後も何らかの形でまちと関わる活動をしてみたいとの意向を持っており、そのフォローが必要   |
| <b>&lt; 地区まちづくり等 &gt;</b> |                           |   |  |  |  |   |   |
| 高野台5丁目地区                  | 2年目                       | ・戸建住宅中心地区におけるマンション計画を契機とした住みよいまちづくりの実現に向けた活動の支援   | まちづくりに関する相談<br>区民主体のまちづくり活動に対する支援                  | ・地区まちづくり計画等の住民提案作成に係る支援  | ・住民主体の体制づくり(準備会登録、定例会化、会員増強と役割分担の明確化など)<br>・アンケートによる地区住民の意識意向の把握<br>・上記に基づくまちづくり計画案(住民検討のためのたたき台)の作成 | ・マンション計画の停止による住民のまちづくり気運の低下                                 | まちづくり計画の作成及び合意形成<br>・準備会から協議会へのステップアップ<br>・まちづくりルールの詳細検討と合意形成<br>練馬区における住民発意型地区まちづくりのあり方の確立<br>・関係する条例・規則、計画・方針と、住民が提案する計画案の整合の考え方<br>・住民による合意形成に係る要件、手続等の考え方 |
| 武蔵関建築協定地区                 | 2年目                       | ・戸建住宅中心地区における住民主体のルールづくり・運営のしくみづくり  | まちづくりに関する相談<br>区民主体のまちづくり活動に対する支援                  | ・まちづくりの取り組みの範囲や方向性を定めていくこと   | ・既存の建築協定を補強する新たなまちづくりに取り組むという方向が明確化され、住民主体で取り組みを開始する準備が整った   | ・一般の協定参加者、非参加者も含めて、広く地区住民のまちづくり意識を醸成していく必要がある               | 建築協定を包含した「まちづくり計画」作成<br>・まちづくりの理念・目標の共有化<br>・まちづくりルールの検討<br>・運営体制・しくみの確立等<br>練馬区における住民発意型地区まちづくりのあり方の確立<br>・区域設定の概念の確立<br>・計画認定後のルール運用支援のあり方 等                |
| みんなの広場(石神井8丁目公園)          | 1年目                       | ・地域住民主体の公園利用・運営・管理の実現に向けた取り組みに対する支援   | まちづくりに関する相談<br>区民主体のまちづくり活動に対する支援                  | ・施設管理型まちづくり協議会の設立支援等、公園の利用・運営・管理に係る公園所有者・管理者(練馬区)への提案・協議の場づくりの活動支援<br>・当該公園の利用・運営・管理に係る「施設管理型地区まちづくり計画」案作成支援 | ・協議会と区との協議の場の事務局的役割を担い、施設管理型地区まちづくり計画(「公園育て計画」)案を作成  | ・作成した計画案と、公園所有・管理者(区・公園緑地課)の方針や法令等との整合                      | 施設管理型地区まちづくり計画案の合意形成に向けた取り組み<br>施設管理型地区まちづくり計画案の実現に向けた具体的活動準備<br>施設管理型地区まちづくり協議会の継続的活動に向けた検討  |

H20年度プロジェクト概要報告書のあらまし

資料2

2009/7/29

| プロジェクト名                  | 経過期間 | 意義・目的   | センター構想の位置づけ  | H20年度のねらい・目標   | 成果  | 課題   | 今後の展望  |
|--------------------------|------|---|--|--|---|--|--|
| <b>&lt;まちづくり活動支援&gt;</b> |      |   |  |  |   |  |  |
| まちづくり活動助成(全般)            | 3年目  | ・区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会のために取り組む、区民主体のまちづくり活動を支援し活性化する。<br>・そのため、地域に根ざしたまちづくり活動の育成、活性化をはかる。               | 区民主体のまちづくり活動に対する支援   | ・助成の対象とするまちづくり活動のイメージや範囲の明確化<br>・審査の基準や判断の指針の整理<br>・事務局による団体へのサポートの強化、充実 | ・助成事業としての方向、枠組みの整備<br>・助成団体とのまちづくり活動に対する相互理解の深化   | ・助成事業の方向、枠組みの周知<br>・助成団体への支援方法、体制の検討<br>・新規団体の応募の伸び悩み  | 新規団体の応募を増やす<br>助成団体への効果的支援<br>優良なまちづくり活動の紹介<br>制度運用の改善効率化  |
| まちづくり活動助成(テーマ部門)         | 1年目  | (上記に加えて)<br>・ハード整備を伴う活動により身近な生活空間の保全・改善・創造の具体例を実現化しその活性化をはかる<br>・ピオネット構想に基づく区民主体のまちづくり活動を試行し普及啓発や育成支援の方策を検討、構築する。 | 区民主体のまちづくり活動に対する支援<br>まちづくりに関する情報提供と学習機会の提供<br>みどりに関する取り組み | ・新部門としての新たな枠組みの整備<br>・「いきものまちづくり」に取り組む区民の発掘と第一期助成団体の確保                   | ・「いきものまちづくり」に対する区民の一定の関心、支持を得た  | ・活動団体への適切な支援が行えず、団体の整備計画づくりや体制づくりが進まず、活動の停滞を招いた        | 空間整備及びそこで展開されるいきものまちづくり活動のイメージの明確化<br>学習会の内容・構成の見直し、改善<br>助成団体への効果的な支援の実施<br>制度設計や事業スケジュール等の見直し、検討   |
| <b>&lt;調査研究&gt;</b>      |      |   |  |  |   |  |  |
| 地域景観資源調査                 | 1年目  | ・既成市街地を対象とした身近な景観に関する検討手法の開発<br>・景観をテーマにしたまちづくりへの潜在的関心層の掘り起こし事業の試行  | まちづくりに関する調査・研究<br>まちづくりに関する情報提供と学習機会の提供                    | (意義・目的と同じ)   | 景観に関する検討手法の開発<br>・景観に関する価値共有・創造のための手法の開発、実施ができた<br>・「まちを切り取る」展等が報道され、区民等からの反響も得た<br>潜在的関心層の掘り起こし試行<br>・講座に従来とは違う新たな区民層の応募が目立つ等、期待通りの成果を得た<br>・「まちを切り取る」展に229名の来場者があり、身近なまちの景観への区民の関心の高さが確認できた | ・調査としての(まとまった)成果物を残せなかった                               | ・センターの役割や区民発意のまちづくり活動を支援するツールを区の景観条例・計画に位置づける取り組みが必要<br>・公社の景観整備機構指定を視野に入れた事業展開の可能性等の検討が必要であり、次年度も景観をテーマとした啓発事業の継続が望ましい<br>・景観整備機構指定について公社内での検討と、区との機能分担等の協議が必要<br>・区が景観行政団体として行う施策への提案が必要 |
| 農地と共生したまちづくり             | 2年目  | 練馬区における緑地機能他、多面的で貴重な役割を果たす都市農地保全のための計画的なまちづくりの取り組み  | まちづくりに関する調査・研究<br>みどりに関する取り組み                              | ・農地周辺地区の再編に資する土地利用・空間像の検討及び実現手法、担保するためのルールづくり等についてのモデルスタディ               | 相続の発生前に農地を活用し、周辺環境と共生した計画的な地区まちづくりを推進するモデルを作成   | ・モデル事業案のリアリティを高める<br>・農地と共生したまちづくり「コーディネート業務ネットワーク」の構築 | 農地と共生したまちづくりが各地で展開されるための選択肢を増やす<br>住宅地を中心とした練馬区における新たなまちづくりの展開をめざす<br>農地と共生したまちづくりの考え方の浸透をめざす  |
| ピオネット構想                  | 1年目  | より豊かに動植物が生息・生育し、次代を担う子どもたちが身近に触れる生命を増やすとともに、動植物を通じて世代をつなぎ、人と人をつなぐ練馬のまちづくりの一助とする                                   | まちづくりに関する調査研究<br>みどりに関する取り組み<br>まちづくりに関する情報提供と学習機会の提供      | 基本構想の準備  | ・報告書を作成   | ・都市計画課との連携について、説明及び調整が必要                               | ・勉強会、検討会を経てピオネット基本構想を策定<br>・これと並行し区民活動の実際へ参入していく   |